

目指す学校像	① 将来の夢や希望を育む学校②楽しく学び、心を耕し、感動あふれる学校③保護者・地域の期待に応え、信頼される学校
--------	---

重点目標	1 楽しく学び、心を耕し、感動あふれる学校を実現する。 2 安心・安全で、保護者・地域から信頼され誇りに思われる学校づくりを実現する。 3 全教職員のICTリテラシーの向上を目指す校内研修を推進し、個別最適な学習を実現する。 4 学校の組織力・機動力を高める教育活動を推進する。
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価								学校運営協議会による評価	
年度目標								実施日令和6年2月29日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、全国、市平均と比べ基礎学力の向上が課題である。 ○全国学力・学習状況調査において、学習に対する関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な回答をした児童の割合は、市平均と比べ国語、数学ともにやや低い。 ○日頃の学習の様子から、落ち着いて取り組む生徒が多い。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に国語の「書くこと」及び数学の「数と式」等に関する設問が課題である。 ○国語や数学への関心が高まっておらず、生徒が国語や数学を学習することの意義を実感できるようにすることが課題である。	・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善 ・学ぶ楽しさを実感できる「田島中版 STEAMS TIME」の創出	①各教科の授業において、スタディサプリなどの学習への取組状況を基に学習相談を実施し生徒が目標をもって学習できるようにする。 ②全国学力・学習状況調査について、生徒が自己採点を行い、その結果を情報端末上のシートに入力することで、生徒が自らの学習状況を把握できるようにする。 ①「田島中版 STEAMS TIME」で、探究的な学びを行う単元を創り出し、実施する。 ②教員と生徒が共に学び、試行錯誤しながら、現代的な課題の解決を目指す STEAMS TIME を展開する。	①全生徒に対して学期に1回以上、学習への取組状況を基に学習相談を行うことができたか。 ②生徒が自己採点の結果をもとに、自らの学習状況をつかみ、目標を立て、行動できるようになったか。 ③調査結果の分析結果を踏まえ、授業改善の視点、手立てを設定することができたか。 ①学校評価に係る教員アンケートにおいて、「生徒と共に探究的な学びを实践することができた」と回答する教員の割合が80%以上となったか。 ②STEAMS TIME 実施後の生徒アンケートにおいて、「関心が高まった」と回答する生徒の割合	① 定期テスト前に質問教室を実施、各学期に1回以上、学習への取組状況を含めた面談を行った。 ② 生徒が自己採点の結果をもとに、自らの学習状況をつかみ、目標を立てることができたが、進んで学習に取り組む姿勢を身につけることは課題である。 ③ 調査結果の分析結果を踏まえ、授業改善の視点、手立てを設定することは課題である。 ① 学校評価に係る教員アンケートにおいて、「生徒と共に探究的な学びを实践することができた」と回答する教員の割合が80%以上となった。 ② STEAMS TIME 実施後の生徒アンケートにおいて、「関心が高まった」と回答する生徒の割合が高まった。	B	① ICT をさらに活用し、家庭での学習の取組方法について、参考例を示す等を学習相談において実施し生徒がさらに主体的に学習に取り組めるようにする。 ② 全国学力・学習状況調査についての振り返りを指導主事等に講師を依頼し、学習状況をさらにきめ細かく分析し、授業改善に活かす。 ① 「田島中版 STEAMS TIME」の模索を行う年となった。指導主事に指導を仰ぎながら実施した内容を来年は、田島中版として創出する。 ② 他校における STEAMS TIME の実践を参考にし、取り入れ、生徒の関心を高める。	田島中学校において、現状では全国学力・学習状況調査、市学習状況調査の平均よりも、基礎学力が低いことの裏付けとして、学習に対する関心等が、国語・数学ともにやや低いと結論付けられている。課題解決策として、ICTを活用し、主体的に学習に取り組める環境整備を行ったが、生徒が進んで学習に取り組む姿勢までには届かなかった。 田島中版 STEAMS TIME を掲げたが、これを実現するためには時間と取組方法の検討も必要と思われる。	
2	○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、市平均を上回った。 ○昨年度、施設・設備の不具合等が主な原因と考えられる生徒の割合が2件であった。 (課題) ○コロナ禍によるストレスや不透明感、生活の変化が生徒の心身に与える影響が大きいことから、今後も、生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組づくりが課題である。 ○教職員による施設設備の安全点検を確実にだけでなく、生徒が自ら危険を予測したり、回避したりする力をはぐくむことが課題である。	・生徒一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の整備 ・安全な生活の実現に主体的に取り組む生徒の育成に向けた学校行事	①情報端末を活用して生徒向けアンケートや面談等の記録を蓄積し、生徒一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。 ②教育相談に係る校内委員会でICTを活用することで、蓄積した情報を基に生徒の状況を細やかに把握、分析し、指導にあたる。 ①校内におけるケガの発生場所、件数、原因などを分析し、生徒と結果を共有できるようにする。 ②課題の解決策について生徒委員会において話し合い、安全な生活の実現に向けた策を実施する。	①学校評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②学校評価に係る生徒アンケート、保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ①学校評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②生徒委員会において、生徒が安全な生活の実現に向けた目標を設定し、けがの件数が減少した	① 学校評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となった。 ② 学校評価に係る生徒アンケート、保護者アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が生徒は90%以上となった。保護者については、89.1%だった。 ① 学校評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となった。 ③ 生徒委員会において、生徒が安全な生活の実現に向けた目標を設定し、けがの件数が減少した	B	① 教員間の横の連携、生徒との面談のスキル向上及び充実に向け取り組み、さらにきめ細やかな指導を行う。 ② 生徒への支援策についての検討を行う中で、田島中学校では生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、適切な支援や相談をすることにより、今回のアンケート結果につながったものと思う。今後も支援体制の強化を望む。	「学校に行くのが楽しいか」の質問に肯定的な回答が、全国・市を上回ったことは、素晴らしい。小・中学校における不登校が全国で30万人いるといわれている中で、田島中学校では生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、適切な支援や相談をすることにより、今回のアンケート結果につながったものと思う。今後も支援体制の強化を望む。	
3	(現状) ○今年度、本校学校運営協議会を立ち上げる。目指す生徒の姿について熟議を積み重ね、自ら課題を見出し、協働して解決していく生徒を地域全体で育てていくことを説明し、共有する。 (課題) ○今年度、学校運営協議会で共有した目指す生徒の姿を、家庭、地域などに広め、地域に住み、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。また、生徒に育てたい力についてさらに熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けた一歩を踏み出す	・目指す生徒の姿を地域全体で共有する教育活動広報 ・生徒の自律につながる継続的な取組に向けた「田島中コミュニティ・スクール成長プラン(仮称)」の策定と行動	①学校運営協議会の情報を発信し、目指す生徒の姿等を広く、家庭、地域と共有できるようにする。 ②学校行事等について、情報を発信できるようにし、学校の教育活動や生徒の成長に対して共有できるようにする。 ①学校評価に係るアンケートを年1回以上実施するとともに、学習状況調査の結果分析等の客観的データを用い、生徒の自律につながるコミュニティ・スクールへと成長を図るためのプランを策定する。 ②策定したプランに基づき、具体的な方策を定める。	①学校評価に係る保護者アンケートで、「楽しく充実した学校生活を送っている」と回答する割合が95%以上となったか。 ②学校評価に係るアンケートで、「学校だよりやホームページ等で学校の様子をよく伝えている」と回答する割合が85%以上となったか。 ①学校評価に係るアンケートで「生徒が授業は楽しく分かりやすいと言っている。」について肯定的な回答をする割合が高まっていったか。 ②学校評価に係るアンケートで、「学校は授業を工夫し、生徒一人ひとりの学力を高めようとしている。」と回答する割合が80%以上	① 学校評価に係る保護者アンケートで、「楽しく充実した学校生活を送っている」と回答する割合が94.4%であった。 ② 学校評価に係るアンケートで、「学校だよりやホームページ等で学校の様子をよく伝えている」と回答する割合は86.7%であった。 ① 学校評価に係るアンケートで「生徒が授業は楽しく分かりやすいと言っている。」について肯定的な回答をする割合は89.7%で昨年度とほぼ同じであった。 ② 学校評価に係るアンケートで、「学校は授業を工夫し、生徒一人ひとりの学力を高めようとしている。」と回答する割合92.5%から93.9と増加した。	B	① 学校運営協議会の情報をホームページ等において発信し、家庭、地域と共有できるようにする。 ② コロナ対応を確実にし、学校公開や学校行事等を実施し、学校の様子を共有できるようにする。 ① 引き続き、田島中コミュニティ・スクールの在り方について検討を重ね、目指す生徒像について共有を図り、実践へと繋げる。 ② 地域に住み、地域に集う全ての人々と目指す生徒像を共有できるようにするための方策について熟議を行う。	学校運営協議会は、学校も地域も一緒に元気になり、お互い尊敬しつつ歩みを深めていく場であると思う。今住んでいる地域が学校とともに発展することを切に願っている。地域に生徒がもっと出ていく機会をつくっていくことが、これからも重要であると思う。	

4	<p>〈現状〉 ○新たな学びのスタイルの中心となる、情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、エヴァンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。</p> <p>〈課題〉 ○ICTの活用について、教員間で取組の差が見られる。誰もが学び続けることができる職場環境づくりが求められる。</p>	<p>・一人ひとりが力を発揮し、学校に集う誰もが居心地のよい（Well-Being）学校をつくる</p>	<p>①年間を通して、ICTの活用方法について、全ての教員が学ぶ研修会を実施する。</p> <p>②一人ひとりの教員が年間を通して取り組む授業改善の目標を設定し、目標達成に向けた授業を実施する。</p> <p>③研修会や授業実践を通して、優れた取組に関する資料や動画データ等を蓄積し、共有する。</p>	<p>①全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。</p> <p>②全ての教員が、自らの目標に向けて授業改善策に取り組み、結果として80%以上の教員が目標達成を実感することができたか。</p>	<p>① 全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になった。</p> <p>② 全ての教員が、自らの目標に向けて授業改善策に取り組み、生徒の実態把握に努め、それに即した指導ができたと肯定的な回答をした割合は93%であった。</p>	B	<p>① 毎時間すべての生徒が端末を活用して行う授業の展開については課題である。</p> <p>② 研修会や授業実践を通して得た優れた取組を共有するプラットフォームを設定する。</p> <p>③ ICTを使うから、ICTを活用し教育的効果を上げることが共通の目標として、年間を通して授業改善に取り組む。</p>	<p>ICTの活用方法について、教員の取組に差が見られるのは当然だと思っている。生徒の方が、使い方が上手な場合もあるかもしれない。課題解決をするため、情報を得るにはICTが有効かもしれないが、発表方法はICTに特化する必要はないと感じる。</p>
---	---	--	---	---	---	---	---	---